授業料免除
もある
新奨学金制度
はじめます！

文学研究科

GUIDE BOOK 2024

国文学専攻／中国学専攻

［ 博士前期・後期 ］

NISHOGAKUSHA UNIVERSITY
二松学舎大学 大学院

文学研究科

［国文学専攻／中国学専攻］

二松学舎大学大学院文学研究科は
これまで数多くの優秀な人材を学界に、教育界に輩出してきました。
そのよき伝統を継承し、学問の世界だけではなく社会の多様な分野で
活躍できる人材の育成を図るため、
意欲的な社会人、留学生のためにも広く門戸を開放しています。
幅広い学問分野を網羅した充実のカリキュラム、
貴重な文献を所蔵する図書館をはじめとした研究環境、
優秀な教授陣による密度の濃い研究指導は、
二松学舎146年の伝統によって支えられています。
こうした教育・研究体制の下、二松学舎大学大学院は必ずや
日本の大学院の最高峰を究めるものと自負しています。

研究科長からのメッセージ

理想的な研究環境の中で、研究者、人間としての成長を。

大学院 文学研究科長
山口 直孝 教授

漢学塾として出発した二松学舎は、漢学に根ざした豊かな学問的な伝統を持っています。漢学は、蓄積された知を踏まえて現実をとらえ、広い視野で問題解決を図る合理的な思考です。総合的な人間学であるその精神は、「東洋学」として建学の精神として掲げられ、現在に受け継がれています。

本文学研究科は、国文学専攻、中国学専攻の二専攻で構成されており、いずれも日本有数の講座数と指導教員数とを誇ります。国文学専攻においては、古代から現在に至る文学および日本語について、中国学専攻においては、古代から現在に至る中国の思想、文学、言語について、研究することができます。比較文学、メディア論、芸能文化、国語教育も含んだ講座が開かれており、多角的な知を身につけることができます。

博士課程前期では修士論文の制作を通じて、独自性のある研究成果を出すことに取り組みます。また、所定の単位を修めることで中学校、高等学校の専修免許状（国語、書道、中国語〔中国学専攻のみ〕）を取得することができます。博士後期課程では、博士論文の完成を目指して、より高度な研究成果を世に問うていくことになります。

近年では、海外の大学院との提携も積極的に進めています。国際色豊かであり、立地も含めて理想的な研究環境を備えた本大学院で自己を磨き、研究者として、また一個の人間として成長してもらえればと思います。

国文学専攻

日本語・日本文化は、漢字・漢文の世界と和歌・和文・仮名の世界とが車の両輪となって、変貌発展を遂げつつ、1300年余を生きてきました。日本文学は日本人の精神の結晶です。本学では、上代・中古・中世・近世・近現代の文学と日本語学を中軸とし、文学系はさらに韻文と散文にそれぞれ細分化して、学生の細かな要望に対応できるカリキュラムを整えています。本学には、人文学会誌（年2回刊行）・大学院紀要（年1回刊行）があり、大学院生の論文発表の機会も多くあります。大学院生一人ひとりの問題意識を尊重し、精緻な事実調査をする力、論理的な思考を表現する力を育て、新しい問を自ら見出し、自らそれに答え、ミクロをマクロに転化展開する、国際化の時代にふさわしい専門職・研究者の涵養をめざします。

国文学専攻をめざす人へ

大学生として日本文学や日本語、日本文化、映像・演劇等を学ぶ中で、研究することの厳しさと楽しさに気づき、関心のあるテーマについてさらに深く考えてみたくなった人、自分のめざす国語教育のためにもっと学問的な研鑽を積み重ねたいと思っている人、あるいは、これまで異なる分野を学んできた結果、その知見を生かしながら日本の文学や言語、文化等を捉え直したくなった人、進学の動機はさまざまでも、国文学専攻で学問に真摯に取り組もうとする皆さんを、私たちは待っています。

国文学専攻主任　五井 信 教授

中国学専攻

東洋の精神文化による人材育成という本学の建学理念を大学院の研究教育で実践するために、中国学専攻では「中国学講座」「日本漢学講座」「総合文化学講座」の3講座群（コース）を設置し、従来、国文学や中国学の一部として研究されてきた「日本漢学」の研究を明確に独立、中国学とともにそれぞれ徹底した研究・教育を行います。「中国学講座」においては、日本漢学の淵源である中国の学術文化を、中国学本来の視点と方法で学び、「日本漢学講座」では国文学専攻と連携しながら、中国の学術文化を受容し発展させた日本漢学を専門に研究します。「総合文化学講座」は、中国学・日本漢学の基礎および展開を学ぶ関連科目、並びに東アジア漢字文化圏の学術文化にかかわる科目等を開設し、中国学・日本漢学を総合的に理解するための講座です。中国学・日本漢学のこのような研究・教育システムは他に例を見ない本学独自のものです。

中国学専攻が用意する2種類の学位

中国学専攻は博士前期課程と博士後期課程のそれぞれに2種類の学位を用意しているのが特徴です。中国の文学・思想・言語・芸術等を対象とする伝統的な中国古典学を修めれば修士（文学）または博士（文学）を、日本で受容された中国学を日本人が発展させた日本漢学を修めれば修士（日本漢学）または博士（日本漢学）を取得できます。特に、日本漢学の学位はこの分野での世界的研究拠点を目指す本学ならではのものです。

中国学専攻主任　伊藤 晋太郎 教授

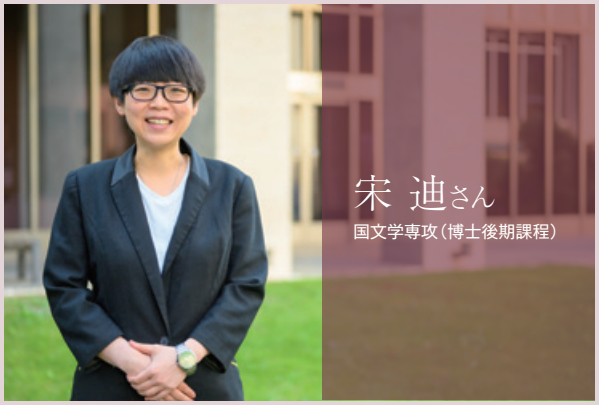
学生メッセージ

国文学専攻

佐藤 瑞紀さん
国文学専攻（博士前期課程）

私は大学生の時に受講した「源氏物語研究」という授業で、物語に登場する様々な女性達の、華やかさの中にある現実的な恋愛観に魅了され、大学院の進学を決意しました。特に政略結婚が主流な中で、繰り広げられる女性達の恋愛物語は、複雑に絡みあっています。これらを紐解き、光源氏が求めた理想的な女性の存在を示したいと考えています。

そのため現在では『源氏物語』において、光源氏が「紫のゆかり」と呼んでいる、血縁関係がある、もしくは容姿が似ている女性達（桐壺、藤壺、紫上、明石君、女三宮）がいるのですが、中でも紫上と光源氏、相互の視点から「紫のゆかり」をどのように捉えていたのかを研究しております。



宋 迪さん
国文学専攻（博士後期課程）

私は、第二次世界大戦下から戦後までの太宰治の作品に表象された男女関係の力学を中心に研究を行っています。

大学時代から日本文学に触れていた私は、日本文学への関心が高まっていくことになりました。その後、日本に留学することを決めると同時に、日本文学を学ぶことにしました。来日し、二松学舎大学に入学しました。最初先生方やほかの院生たちと一緒に文学の話題になった時のワクワクした気持ちがいつまでも忘れられません。

私にとっての大学院は、授業で勉強する時間を重ねるにつれて、様々な知識や分析力が身につく、いわば自分の成長を楽しめるところです。

中国学専攻

加藤 淳さん
中国学専攻（博士前期課程）

私は日本語教育を仕事としており、多くの外国人留学生の方々と関わってきました。特に東アジアからの留学生が多いのですが、彼ら彼女らと接しているうちに、その背景にある社会や文化を私も学んでみたいと考えるようになったのが大学院進学のきっかけです。

大学院では北宋時代の絵画や画論について研究しています。絵画をひとつの事例として、近隣諸国と日本との間での、ものの見方の違いや文化の交流について理解を深められたらと考えています。また、専門分野を深めるだけでなく、古典を中心に文学、思想、文化など、多岐にわたる分野の専門知に触れることもできています。

幅広く、かつ奥深い中国学という分野での学びや研究活動を通して、私なりの異文化理解や文化交流の形を模索していきたいという思いで日々の研究に取り組んでいます。

陳 鵬飛さん
中国学専攻（博士後期課程）

私は大学時代に六朝志怪に惹かれ、中国側の天人観研究のみならず、日本側の鬼神研究に強い関心を持ちました。大学を卒業した後、より多様な視点から作品を解読し、日中間における文学の見方や研究方法の違いについて理解を深めるために、日本への留学を決めました。現在、私は、『搜神記』を中心に、魏晋時代における災異思想と社会風俗について研究しています。

中国学専攻では、中国の文学や思想を中心に、より深く専門的な知識を身に着けるだけでなく、鋭い問題意識と創造的な視点を育むことができます。また、諸先生や先輩方から研究上の助言や丁寧な指導を受け、楽しく研究活動を推進することと、新たな発見や学びにより充実感を得ることができます。

社会で活躍する修了生

二松学舎大学 非常勤講師

学部のゼミ時代から説話文学に興味を持ち、大学院でも説話集、特に『宇治拾遺物語』や『古事談』といった中世説話集について研究してきました。説話と一口に言っても、それぞれの話の内容は、時に和歌や音楽のいわゆる詩歌管絃、また時には仏教などの宗教、さらには中国やインドといった異国の説話など、多岐にわたっています。ですから、それらを研究するためには、おのずと様々な知識や観点が必要で、本学に上代から現代までの文学や語学などを専門とする先生方がいらしたことは大変心強いことでした。また本学は、立地にも恵まれ、九段坂を下れば神保町、すぐ近くには国立国会図書館や宮内庁書陵部など、文献調査などに事欠きません。そうした優れた研究環境のもと、文学研究に没頭できることは、大学院を選ぶ際の大きな魅力でもありました。

現在は、本学非常勤講師としてお世話になり、みずからがこの二松学舎で学んできたことを伝え、少しでも文学研究の楽しさやおもしろさを感じてもらえるように努めています。また、本学の博士前期課程で国語科の専修免許を取得し、より専門的な知識を得られたことは、高等学校でも非常勤講師をしている私にとって大いに役立っています。

2020年度
博士後期課程修了
鈴木 和大さん

河南農業大学（中国・河南）日本語科　講師

2017年度
博士後期課程修了
楊 爽さん

日本の漢文学に興味をもっているため、漢文学の研究で知られる二松学舎大学を選び、博士後期課程に入学しました。日本の漢文学は「国文学」にカテゴライズされますが、ただ日本のことだけを集中して研究すればよい、というわけではありません。そのため、漢文学（「国文学」）以外にも、「中国学」の課程も充実した二松学舎大学での三年間は、研究へのたしかな基礎を与えてくれました。

在学中は、二松学舎大学が主催する様々な学会やシンポジウムで発表することができ、研究の視野を広げることができました。また、学内に設置された東アジア学術総合研究所での勤務や、国際学会での発表や運営等にも携わり、経験を積むことができました。

さらに、国際交流を重視する二松学舎大学には、国際交流センターという留学生のための支援機構があり、留学生のための交流会やイベント等、様々な活動が行なわれています。そのこともあずかって、研究以外の面もふくめた、多彩で充実した留学生活を送ることができました。

現在、私は中国の河南省にある河南農業大学で日本語教師をしています。よく、学生たちには二松学舎大学での留学生活について、感激を込めて伝えています。先生たちの学問に対する真摯さや情熱に深い感銘を受けた私にとって、二松学舎大学は、私を研究の道に導いた存在と言えるのです。

清華大学（台湾）中国文学系　副教授

国立台湾大学在学中に陽明学の研究に興味をもった私にとって、当時世界で唯一の陽明学研究所(注)があった二松学舎大学大学院は第一志望でした。文学、哲学と分けずに「中国学」という領域で豊富な講義、演習を受けることが出来たことは、私の視野を広げ、専門知識を深めてくれました。博士前期課程、後期課程を通して学んだ一番大事なことは、「学問の楽しみ」ということです。

現在私は台湾の国立清華大学中国文学系で主に中国思想と日本漢学を担当しています。二松学舎で身につけた専門知識が役に立っているのは勿論ですが、身をもって感じた先生方や先輩方の学問に対する情熱、真摯さがその後の自分の原動力となりました。

中国学、日本漢学の両方を学ぶことは、自国の文化を考え、先学の思索を理解するのにとても大切なことだと、教える立場になって改めて感じます。二松学舎でこれらの「原典」をしっかりと学べたことが、大事な糧となって今の私を支えています。

2009年度
博士後期課程修了
鍋島 亜朱華さん

（注）陽明学研究所の事業は現在、東アジア学術総合研究所陽明学研究センターに引き継がれています。

教育環境

都心の九段キャンパスで学ぶ

東京都心、そのさらに中心に位置する千代田区三番町。
都心にありながら、春には桜、秋には銀杏並木の美しい
落ち着いた佇まいを見せる街です。
この文教施設や商業ビルが立ち並ぶ
都心の一等地に九段キャンパスはあります。
歴史の息吹と文化の薫りを存分に、満喫してください。

1号館

4号館

3号館

5号館

さまざまな履修形態が可能

文学研究科における教育は、指導教員による「研究指導」と授業科目の履修によって行われます。授業科目の選択・履修は、各自の研究分野に必要な科目を、指導教員の指導を受けつつ、行います。授業は2～5時限の昼間、6・7時限の夜間に開講しており、学生は昼間・夜間の別なくいずれも履修できます。夜間に受講する社会人学生のために、各分野の科目を開講しています(昼夜開講制)。このほか、長期休暇期間に集中講義を開講する場合があります。

	月～金曜日	土曜日
2時限	10：50～12：20	10：50～12：20
3時限	13：00～14：30	13：00～14：30
4時限	14：50～16：20	14：50～16：20
5時限	16：40～18：10	—
6時限	18：20～19：50	—
7時限	20：00～21：30	—

※土曜日の科目は年度によって開講されない場合があります。

入学から修了までの流れ

学部から ／ 社会人・主婦等 ／ 留学生

博士前期課程

標準修業年限2年(最長在学年限4年)

入学時期	研究指導教員の決定
	研究テーマの選定
	個別履修計画
履修要件(30単位以上＋研究指導)	講義科目　18単位以上 講義科目の単位には、他専攻及び国際日本学研究科国際日本学専攻の講義科目を8単位まで含めることができる
	演習科目　12単位以上
	研究指導
修了時期	修士論文の審査
	最終試験

修士学位授与(教育職員専修免許取得)

就職

博士後期課程

標準修業年限3年(最長在学年限6年)

入学時期	研究指導教員の決定 ／ 研究テーマの選定 ／ 個別履修計画
履修要件	講義科目・演習科目 ― 12単位以上
	研究指導
修了時期	博士論文の審査 ／ 最終試験

博士学位授与

大学院生用　施設・設備

図書館 <1号館>

九段キャンパスの図書館では約20万冊の図書資料を収蔵。柏キャンパス(千葉県)の図書館は約14万冊を収蔵しています。

国文学／中国文学(中国学)共同研究室・大学院生控室<1号館>

辞書類や基礎的資料、映像メディア等の視覚資料をそろえ、大学院生が便利に利用できる環境を整えています。

日本漢学研究の国際的拠点

二松学舎大学は2004年度に文部科学省21世紀COEプログラム「日本漢文学研究の世界的拠点の構築」に採択され、その後も「日本漢文教育研究プログラム」を経て、2015年度には文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業として「近代日本の「知」の形成と漢学」プロジェクトが採択されました。これは、日本学と中国学、近代と古典を結ぶ新たな学びを展開していこうとする本学独自の学究計画が高い評価を得たことを意味します。

本大学院中国学専攻の「日本漢学講座」科目群ではその成果の一端に触れることができ、また学生は、日々深化する研究の担い手ともなることができます。

なお、本学は日本漢文研究の国際的拠点となるべく、国内はもとより世界も視野に入れた活動を行っており、海外研究拠点を世界各地に設け、研究員の派遣・受け入れや国際シンポジウムの開催を行っています。

取得できる学位が広がる

二松学舎大学は、2015年度から2019年度までの5年間にわたって、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（MEXT-Supported Program for the Strategic Research Foundation at Private Universities、略称SRF）に採択され、「近代日本の「知」の形成と漢学（The Formation of Knowledge in Modern Japan through Kanbun Studies）」という研究プロジェクトを推進しました。このことを受けて、二松学舎大学大学院文学研究科中国学専攻は「日本漢学」の拠点として、新たな学位を設けました。

課程	専攻	取得できる学位
博士前期課程	国文学専攻	修士（文学）
	中国学専攻	修士（文学）又は修士（日本漢学）
博士後期課程	国文学専攻	博士（文学）
	中国学専攻	博士（文学）又は博士（日本漢学）

2つの国で2つの学位が取得可能（博士前期課程のみ）

2018年4月から、本学協定校の1つである中国・浙江工商大学東方語言・哲学学院（日本の大学院に相当）とのダブル・ディグリー・プログラムを開始しました。

ダブル・ディグリーとは、本学文学研究科と中国・浙江工商大学東方語言・哲学学院との間で、教育課程・履修内容・単位互換等について協定を締結し、それぞれの大学院で学ぶことで、博士前期課程の2つの修士学位が取得可能な制度です（中国・浙江工商大学東方語言・哲学学院への留学が必須となります）。

中国・浙江工商大学東方語言・哲学学院にサテライト教室が設けられており、日本と中国（留学）の2つの国で学ぶことにより、2つの学位が取得可能となっています。

海外協定校との大学院生交流プログラム

本大学院は以下の大学と学生交流プログラム協定を締結しています。北京大学（中国）、浙江工商大学（中国）、中国文化大学（台湾）、成均館大学校（韓国）、リール大学（フランス）、ボルドー・モンテーニュ大学（フランス）、カ・フォスカリ大学（イタリア）、エトヴェシュ・ロラーンド大学（ハンガリー）。

北京大学（中国）

浙江工商大学（中国）

中国文化大学（台湾）

成均館大学校（韓国）

リール大学（フランス）

ボルドー・モンテーニュ大学（フランス）

カ・フォスカリ大学（イタリア）

エトヴェシュ・ロラーンド大学（ハンガリー）

国文学専攻

山口 直孝 教授／研究科長
やまぐち ただよし

担当科目 近代文学講義ⅢA・B

❶関西学院大学大学院文学研究科博士課程後期課程日本文学専攻単位取得済満期退学、博士（文学）（関西学院大学） ❷日本近代の小説 ❸（1）「私小説」概念の近松秋江・志賀直哉における受容と創作の展開の分析、（2）大西巨人を中心とする文学芸術運動、（3）横溝正史文芸の展開相の把握

五井 信 教授／専攻主任
ごい まこと

担当科目 文芸理論講義ⅡA・B

❶立教大学大学院文学研究科博士課程後期（日本文学専攻）単位取得満期退学 ❷日本近代文学、文学理論、カルチュラル・スタディーズ ❸田山花袋を中心にした明治後期の<日本>表象に関する研究。小説だけではなく紀行文や従軍記、あるいは英語の旅行ガイドブックといったテクストを対象にしている。

江藤 茂博 教授
えとう しげひろ

担当科目 近代文学演習ⅠA・B

❶立教大学大学院文学研究科博士課程後期満期退学、博士（文学）（二松学舎大学） ❷文芸・映像・メディア文化論 ❸（1）メディア変換における物語構造の変容に関する研究、（2）近代現代日本の文芸・思想及び表現文化

小山 聡子 教授
こやま さとこ

担当科目 日本文化学演習ⅡA・B

❶筑波大学大学院博士課程歴史・人類学研究科史学専攻修了、博士（学術）（筑波大学） ❷日本中世宗教史 ❸（1）古代・中世社会でモノノケがどのように捉えられ、いかなる対処がなされたのか、検討していく。（2）親鸞やその家族、門弟の信仰を理想化するのではなく、歴史の中に位置づけて論じることにより、彼らが生きていた社会について明確にしていく。

塩沢 一平 教授
しおざわ いっぺい

担当科目 2023年度は担当せず

❶東京大学大学院 人文社会系研究科 日本文化専攻日本文学専修 博士課程修了、博士（文学）（東京大学） ❷古代和歌・歌謡論、歌謡曲・J-POP論（ダブルメジャーとして、高等教育研究） ❸万葉宮廷歌人歌の創造・享受・継承に関する研究。この研究を援用した現代歌謡・J-POP研究。（ダブルメジャーとして、文学教育・研究のレリバンス研究）

島田 泰子 教授
しまだ やすこ

担当科目 日本語学講義ⅢA・B

❶奈良女子大学大学院人間文化研究科博士課程比較文化学専攻単位取得満期退学、博士（文学）（奈良女子大学） ❷日本語学（歴史的変遷の解明、分野融合的研究） ❸言語変化とその兆候・歴史的位置付け等に関する分析、語構成論（接尾語研究）

妹尾 好信 教授
せのお よしのぶ

担当科目 古典文学演習ⅣA・B

❶広島大学大学院文学研究科国語学国文学専攻博士課程後期中途退学 ❷平安朝文学 ❸平安時代に成立した物語（特に『伊勢物語』を中心とした歌物語）や私家集の読解研究

五月女 肇志 教授
そうとめ ただし

担当科目 日本文学講義①A・B

❶東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了、博士（文学）（東京大学） ❷中世和歌文学 ❸藤原定家・源俊頼等の中世歌人による『万葉集』・王朝物語の享受の問題。古典作品の本文異同から見出される諸問題の分析

瀧田 浩 教授
たきた ひろし

担当科目 近代文学講義ⅡA・B

❶立教大学大学院文学研究科日本文学専攻博士後期課程単位取得満期退学 ❷日本近代文学、文化研究 ❸武者小路実篤が主要研究対象であるが、高度経済成長期下の文化にも目を向けている。

長島 弘明 教授
ながしま ひろあき

担当科目 古典文学演習XA・B

❶東京大学大学院人文科学研究科博士課程中退。博士（文学）（東京大学） ❷日本近世文学 ❸江戸中期の文人文学研究。上田秋成、建部綾足、蕪村らの小説・俳諧等の研究

中谷 いずみ 教授
なかや いずみ

担当科目 メディア学演習ⅠA／近代文学と国語教育

❶日本大学大学院文学研究科博士後期課程国文学専攻修了、博士（文学） ❷日本近代文学・文化 ❸ジェンダー・セクシュアリティとメディア表象、暴力／抵抗の歴史と文化運動、戦争をめぐる集合的記憶と文学・文化

原 由来恵 教授
はら ゆきえ

担当科目 古典文学講義ⅥA・B

❶二松学舎大学大学院博士後期課程修了、博士（文学）（二松学舎大学） ❷平安朝散文学、伝承論 ❸今まで解析されずにきた『枕草子』地名類聚章段の解釈から、作者清少納言の執筆意識と作品の文学性を抽出し、作品の解明を目指している。

増田 裕美子 教授
ますだ ゆみこ

担当科目 比較文学演習ⅡA・B

❶東京大学大学院人文科学研究科比較文学比較文化専門課程博士課程単位取得満期退学 ❷比較文学 ❸夏目漱石を中心とした日本文学の研究。万葉集や平安朝の古典から現代文学までを通時的に眺め、西洋文学や芸術との関連も探る。

森野 崇 教授
もりの たかき

担当科目 日本語学演習ⅢA・B

❶早稲田大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学 ❷日本語文法史（特に助詞、助動詞の通時的研究） ❸係り結びの構造や、係り結びを引き起こす係助詞について、捉えなおしている。また、助詞と待遇表現との関わりにも関心をもつ。

荒井 裕樹 准教授
あらい ゆうき

担当科目 文芸理論演習ⅠA・B

❶東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻日本語日本文学専門分野修了、博士（文学） ❷日本近現代文学、障害者文化論 ❸マイノリティ文学、マイノリティの自己表現活動、戦後の障害者運動史

講師（2023年度）

小森 正明　鈴木 道代　保戸塚 朗　湯浅 佳子

中国学専攻

伊藤 晋太郎 教授／専攻主任
いとう しんたろう

担当科目 中国文学演習①A・B

❶慶応義塾大学大学院文学研究科中国文学専攻後期博士課程単位取得満期退学、博士（文学）（早稲田大学） ❷三国志・中国古典通俗文学 ❸三国時代の武将でありながら、後代に神として崇拝されることになった関羽について、文学的方面、歴史的方面、宗教的方面から研究している。

王 宝平 教授
おう ほうへい

担当科目 日中比較文化学特殊講義①A・B

❶北京外国語学院北京日本学研究中心言語文学研究科修了、博士（文学）（関西大学） ❷日中文化交流史 ❸（1）大河内文書をはじめとした筆談資料の整理と研究、（2）近代日中文化交渉史。

田中 正樹 教授
たなか まさき

担当科目 中国思想演習①A・B

❶東北大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学、博士（文学）（東北大学） ❷宋代士大夫の学術、近代の漢学 ❸（1）北宋期の思想（三蘇・蘇門六君子）（2）南宋の学術筆記（洪邁等）（3）中国美学（風景認識）（4）山田方谷・三島中洲の思想

福島 一浩 教授
ふくしま かずひろ

担当科目 書道演習ⅡA・B／書道演習②A・B

❶明治大学商学部商学科 ❷日本書道史、書道実技（かな）、書写教育、古筆研究 ❸佐理、光悦、良寛の書状や、平安かな古筆における文字群の成立過程、時間性、空間の研究と抽出した仮名美と現代美を融合し、俳句文学による書を創造。

牧角 悦子 教授
まきずみ えつこ

担当科目 中国文学講義①A・B

❶九州大学大学院文学研究科中国文学専攻博士後期課程中退、博士（文学）（京都大学） ❷中国古典詩・漢魏六朝文学論、聞一多研究、中国近代学術 ❸中国の古代文学。詩経・楚辞を中心にその成立と解釈、及び近代における古代学の成立。中国詩歌の歴史的変遷を、歌と詩という視点から再構築すること。

町 泉寿郎 教授
まち せんじゅろう

担当科目 日本漢学講義①A・B

❶二松学舎大学大学院文学研究科国文学専攻博士後期課程修了、博士（文学）（二松学舎大学） ❷日本漢文学（15~19世紀日本の学芸史―儒学と医学を中心に） ❸（1）室町時代~江戸初期における新注学、（2）漢方医学史、特に医学館等における考証学、（3）近代化過程における漢字・漢文・漢学、（4）岡山の漢学、（5）渋沢栄一

小方 伴子 特任教授
おがた ともこ

担当科目 中国語学演習①A・B

❶東京都立大学大学院人文科学研究科中国文学専攻博士課程修了、博士（文学）（東京都立大学） ❷中国語学(古典)、『国語』研究 ❸（1）清朝及び江戸時代に於ける『国語』の伝承、校勘、注釈に関する研究、（2）『国語』及び『国語』韋昭注の語法研究

関 俊史 専任講師
せき としふみ

担当科目 中国文化学特殊講義①A・B

❶早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程修了、博士（文学）（早稲田大学） ❷中国書学・書道史、書道実技 ❸中国において書がいかに価値づけられ、価値を持つに至ったかを思想的・時代的要請、書論の内的な理論構築の過程を分析することで考究している。

和久 希 専任講師
わく のぞみ

担当科目 中国思想講義①A・B

❶筑波大学大学院一貫制博士課程人文社会科学研究科哲学・思想専攻修了、博士（文学）（筑波大学） ❷中国哲学、形而上学、中国古典文学 ❸魏晋玄学とその展開相としての玄言詩について

講師（2023年度）

中根 公雄　中村 聡　樋口 咲子

※科目名、授業内容は2023年度のものです。2024年度以降は変更となる場合があります。

国文学専攻 博士前期課程

国文学講座

古典文学講義IA・B

Aでは、『万葉集』巻14および20の防人歌を、Bでは、『万葉集』巻20の防人歌を研究する。上代文学で修士論文を作成する者向けの講義である。基本的には演習形式によって、修士課程レベルで必要とされる、文献調査や、情報整理、論理構築、学術文章の書き方などを実践的に培うことで、修士論文を作成する基礎を身につけてゆく。本年度は、防人の歌および防人に関係する家持の歌を中心に研究してゆく。一首一首を丁寧に読み解くことにより、防人の歌はなぜ悲しいのか、家持はなぜ防人に思いを寄せたのかを理解することを目的とする。

古典文学講義VIA・B

『源氏物語』のテクストを先行研究で指摘された問題点を踏まえ、新たに読みの検証をしていく。本年度は「夕顔」「葵」「若菜下」各巻を中心に「心の鬼」と「もののけ・怨霊」の連関性を読み解いていく。

近代文学講義IIA・B

Aでは、日本近代文学を研究する上で前提となるテクスト分析の確認作業おこなうとともに、歴史的には、初期の芥川賞受賞作品を審査員の選評と合わせて精読し、戦中の文学の状況についての検証作業もおこなう。Bでは、千葉俊二・坪内祐三編『日本近代文学評論選【昭和篇】』（岩波文庫）に収録されている論文を精読し、戦前から戦後にかけて何が日本近代文学の問題になってきたかを理解できるようになる。

近代文学講義IIIA・B

Aでは、江戸川乱歩の初期から中期にかけての短編および『蜘蛛男』を精読する。後期資本主義国の一つであった日本において探偵小説が生まれた事情を考えながら作品の様態に迫りたい。Bでは、大下宇陀児、橘外男の短編を精読する。広義の探偵小説の書き手と見なされる二人の作品の分析を通じて、日本における独自の展開の外延を把握することを目指す。

国語科教育学

この講座は、中学校・高等学校における国語科・古典分野を対象とする。新学習指導要領への理解を深めながら、年間学習指導計画の作成、個別教材の学習指導計画の作成、教材研究の方法、学習指導案の作成、授業の実際などについて、具体的な教材を題材にして講義・演習し、国語科教員としての実践的指導能力の育成を目指す。アクティブ・ラーニングやICT機器の活用なども視野に入れながら、これからの教員に求められる指導力や倫理観、また社会的責任などについても触れてゆく。

古典文学と国語教育

中学校・高等学校の国語教員を志望する大学院生のための授業である。国語教育の専門分野の一つである古典文学について、各自が研究テーマを決め、文学研究と教材研究の二つの視点から考察を行う。文学研究は作品をどう読むかについて、参考文献等を参考に考察する。また、その作品をどう教えるかについて、学習指導要領や教科書、指導書、国語教育の文献資料等を手がかりに教材研究を行う。授業の一日を使い、国文学研究資料館で調査を行う。また授業の終わりに研究発表会を行う。

近代文学と国語教育

中学校・高等学校国語科の代表的な文学教材を題材に、近代文学研究の成果をいかした教材研究の方法を学び、生徒の思 考力や表現力の育成をめざす授業デザインを検討する。その過程を通して、論理 ／文学の二項対立に捉われることなく、国語科で文学作品を扱うことの意味について考える。

古典文学演習IVA・B

平安時代前期の女性歌人で三十六歌仙の一人である中務の家集『中務集』を輪読する。冷泉家時雨亭文庫蔵資経本を底本として、文献学的方法に基づいて、第二類本293首を1首ずつ読み解いていく。また、先行研究を参照・吟味し、修正を加えながら、独自の解釈を見出していく。

近代文学演習IA・B

Aでは、文学研究の入門として、芥川龍之介のテクストを取り上げて、解読・精読する。併せて、批評理論や文学理論の応用を試み、研究に関する基本的な知識を身につけてもらう。Bでは、批評・評論・エッセイに関する論文の作成方法を、近代日本の批評史の文脈から、基本的な批評のスタイルとその表現方法を確認する。そこから、これまでの文学研究の表現方法を理解し、各自関心領域の研究論文を読む。そして、各自が必要とする研究方法を手に入れてもらいたい。

文芸理論演習IA・B

「論文読解」および「小説読解」の訓練を行う。現代小説を題材に、自身の解釈を展開するトレーニングを行ない、論文・小説、共に高度な解釈を行えるようなることを目指す。Aでは「震災」に関連する作品とそれにまつわる先行研究を取り上げる。Bでは現代の女性作家による小説を題材に、「母娘」がテーマとなった作品を中心に扱う。毎回の授業で、学生たちに研究報告（輪番制・3000～4000字程度のレポート）を行なってもらう。

比較文学演習IIA・B

三島由紀夫の『近代能楽集』を取り上げて、原典の謡曲と比較しながら、どのような文学的変容がなされているかについて考察する。また、近代以前に作り上げられた謡曲がどのように近代の文学として再創造されたか理解する。

日本語学講座

日本語学講義IIIA・B

意味・用法の変化を含む語の歴史的変遷をたどり、実証的・論理的・体系的な語誌の考証を行う。和語の歴史を明らかにするために必要となる以下の研究リテラシーを習得することを目的とする。①文献資料やコーパス等の言語データに基づいて言語の事実を確認する態度と手法、②言語資料の種類と実相に関する理解と知識、③資料から具体的な用例を探し当てるための調査方法、④収集した大量の用例を整理・分析するための方法論とツール、⑤実例の検討と考察に必要となる専門的な理論と術語。

日本語学演習IIIA・B

古代日本語の特徴的な構文現象である「係り結び」について、その成立や衰退のプロセス、各係助詞の特性等を検討する。その過程で、現代日本語の文法をめぐる事象や、係助詞以外の助詞や助動詞類のはたらきなど、さまざまな課題にも目を向けていく。

総合文化学講座

古文書学講義IA・B

古代から近世までの文学作品や歴史史料を素材として、くずし字の読解、および写本系統などの書誌学的な情報の調べ方に習熟し、史料を正しく読解する力を養う。

日本文化学演習IIA・B

日本文化を理解する上で、日本人と死に関する研究は不可欠である。そこで、この授業では、(A)古代から中世まで、(B)中世後期から近現代まで、日本人がどのように恐れ、いかなる方法で恐れを超克しようと試みてきたのかを具体的に究明していく。

メディア学演習IA

異性愛主義と植民地主義の交差性について考える。文学作品を通して、異性愛主義と植民地主義における主体について論じることができるようになることを目的とする。

書道演習IIA・B

(A)楷・行各書体(B)草・篆・隷各書体を解析・事前の調べで得た書美の要素によってレポート作成、意見交換を経て半切（135×35cm）に再現する。さらに抽出した書美の要素を結集させ創作へ進む。このプロセスから抽出が不十分である内容を発見し、より深い解析へと向かうことによって書の本質にせまる。書は造形芸述、時間芸術であるが、配置、組み合わせなどを創作活動において意味づけをすることによって秩序を生み、又、書としての線の内容に対しての視点を持つことで自分の美的水準を引き上げてゆくことができる。

文芸理論講義IIA・B

Aでは、小説テクストを、注や補注をつけるような作業を加えることで、丁寧すぎるくらいに読み込む。Bでは、M・フーコーやドゥルーズ&ガタリなどに関する入門書を読み、基本的な理解を身につける。

古典文学演習XA・B

建部綾足の和文の読本『西山物語』を版本の原本コピーを用い詳しい注を付けながら正確に読解する。『西山物語』には上代から王朝時代を経て中世に至る様々な古典や同時代の歌舞伎・浄瑠璃を参照しているので実際にそれらの典拠を調べながら資料探索の方法を習得する。また国学の強い影響を受けた作品でもあるので文学と思想の関係について考える機会にもしたい。

国文学専攻

博士後期課程

- 古典文学特殊講義VA・B
- 古典文学特殊講義IXA・B
- 近代文学特殊講義IIA・B
- 近代文学特殊講義IIIA・B
- 古典文学特殊演習XIIA・B
- 近代文学特殊演習IIIA・B
- 日本語学特殊講義IIA・B
- 日本語学特殊演習IA・B
- 日本文化学特殊演習IA・B

修士・博士 論文一覧

修士論文

2022年度　修士論文題目
『満韓ところどころ』における「満」と「韓」の表記について
『モノノケ』の語義・表記の変遷
壺井栄研究―『十五夜の月』論―
『斜陽』における人物像
越境する『和食』イメージ　中国人における『孤独のグルメ』受容を考察の起点として
川上未映子作品における痛みの身体感覚
西尾維新「クビキリサイクル」論 ―「つながり」の補完と「決断」への移行―
武者小路実篤『ある青年の夢』の中国における影響―魯迅と孫俍工を中心に―

2021年度　修士論文題目
村上春樹「ノルウェイの森」及び「納屋を焼く」の比較研究 ―映画と小説テクストをめぐって
谷崎潤一郎と「夢判断」 ―谷崎文学におけるフロイトの受容
夏目漱石と魯迅 ―― 『それから』と『傷逝』を中心に
桐野夏生『OUT』における女性たちの境遇
太宰治『人間失格』の小説と映画 ―― 原作小説の映画化作品はどのように受容されるのか
植民地期台湾における日本語台湾方言の研究　―国民学校国語教科書からの影響を中心とした検討―
接尾辞〈コ〉〈ポ〉類とその周辺
澁澤龍彦と唐十郎 ―― 「犬狼都市（キュノポリス）」と「盲導犬」「唐版：犬狼都市」の比較を中心に
林語堂〈MomentinPeking〉と日本語訳『北京の日』の比較研究
日中二次元文化から見る新語・流行語の発展
古代日本人の嗅覚 ―その感性と表現の展開―

2020年度　修士論文題目
万葉集における雨表現
琵琶と文学 ―中世楽書・軍記・平曲を中心に―
イチゼロ時代ライトノベルの物語構造 ――『デート・ア・ライブ』シリーズにおける「セカイ系」と「ハーレム系」の融合
天平宝字二年二月宴席歌論 ―「移ろひ」と「永続性」―
戦後文学として見る『明治開化安吾捕物帖』―「考える」姿勢―

2019年度　修士論文題目
古代人の子どもの捉え方
メディア・コンテンツとしての「eスポーツ」
漱石と人魚－『三四郎』における「マーメイドの図」をめぐって
ソーシャルメディアが煽る流行と消費　ドウインとTikTokの比較を題材に
「無頼派」文学における「共依存」―『ヴィヨンの妻』と『桜の森の満開の下』―
中世前期　神祇歌の研究

2018年度　修士論文題目
1960年代の作品から見る開高健の作風の転換

博士論文

年度	博士論文題目一覧
2022	アジア太平洋戦争後の＜私小説＞の研究：文学場の変容と拡張
2022	成語と諺の日中対照研究―― 植物を使う事例を中心に
2020	中世前期説話文学の研究
2017	依田学海研究―漢文小説を中心に―
2016	隠者を巡る諸問題の研究
2016	上代文学における婚姻・出生伝承に関する研究

※科目名、授業内容は2023年度のものです。2024年度以降は変更となる場合があります。

中国学専攻 博士前期課程

中国学講座

中国文学講義①A・B

『文選』を李善注で読む。中国中世の文の規範である『文選』のいくつかの詩文を精読することで、「文」の意義について理解すると同時に、唐の李善注を詳細に調べることで、古典的語彙の出典と古典解読の為の技術・知識を習得する。

中国思想講義①A・B

本講座は、代表的古典資料のひとつである『荘子』郭象注の講読を通じて、中国哲学の諸問題について検討することにより、大学院生の基礎的な研究能力の向上を目指すものである。とくに古典学としての文献操作、訓詁学にもとづく一字一句の厳密な解釈とともに、哲学系資料の解釈に必要不可欠な思弁的態度の涵養を重視する。なお、本講座は文学研究科の開講科目であるため、演習形式を採用する。すなわち各回担当者のレジュメと口頭報告にもとづき、教員と受講者全員の討議によって進行するものである。

中国文学演習①A・B

明清文学を正確に読み解くためには、背景にある当時の人々の精神文化に対する理解が不可欠である。三国蜀の武将である関羽が神格化された関帝に対する信仰も明清社会に広く浸透していた。そこでこの授業では、清康熙年間に王朱旦が著した「漢前将軍壮繆侯関聖帝君祖墓碑記」(以下、「祖墓碑記」と略称)を読み解き、その訳注を作成する。訳注作成を通して、関帝信仰や当時流行していた占いなど明清の人々の精神生活と『三国志演義』等小説との関係、関帝信仰と儒教との関係、「祖墓碑記」と史書との関係などについて理解を深めることを目的とする。同時に訓読技術のさらなる向上も目指す。

中国思想演習①A・B

(A)【宋代絵画論研究】宋代絵画論の代表ともいえる郭熙・郭思の『林泉高致』を読解する。『林泉高致』を丁寧に読解することで、北宋期の絵画界のみならず当時の士大夫(の詩文)にも大きな影響を与えた山水画観・山水観を伺おうとするものである。(B)【山水画論研究】北宋の画院画家郭熙及び息子の郭思の著した『林泉高致』は、宋代絵画論の代表と言えるが、この授業ではそれ以前の唐から北宋初期に著されたと伝えられる山水画論を取り上げ、読解する。

日本漢学講座

日本漢学講義①A・B

江戸期明治期の儒者・漢学者・医者など、高い漢学的素養を身に着けた人物の稿本・書簡・日記など書写資料の読解を通して、日本漢学研究に必要なくずし字と漢文の読解のスキルを身に着けるとともに、当該期の学術史の諸問題に関する問題意識を高めることを目的とする。また、明治前期に東京大学古典講習科に学んだ人物の資料を取り上げて読解し、漢学の近代における解体変容の問題について考える。

漢文学(文学)と国語教育

漢文すなわち古典中国語で書かれた資料(唐宋八大家や明代の文章等)を読み、文を構成する語句の意味や文の構造、句形・修辞等を丹念に考察することで、本文を的確に読み解くことができるようになる。さらに学習事項の背景を広く展望することにも留意し、中国の歴史・思想・文学における所要の知識を豊富化できるようになる。

漢文学(思想)と国語教育

漢文すなわち古典中国語で書かれた資料(諸子百家や朱子学、陽明学の文章)を読み、文を構成する語句の意味や文の構造、句形・修辞等を丹念に考察することで、本文を的確に読み解くことができるようになる。さらに学習事項の背景を広く展望することにも留意し、中国の歴史・思想・文学における所要の知識を豊富化できるようになる。

日本漢学演習②A・B

日本やアジア諸国が近代化するにあたって、西洋文明の流入が大きな影響を与えたことは論をまたない。その西洋文明とともに、日本では禁教とされていたキリスト教が再渡来した。かつて禁教と迫害の的であったキリスト教は、幕末から明治維新後の日本の文化を牽引する一翼を担うこととなる。当時の宣教師がキリスト教をどのように伝え、それが日本を始めとするアジアの近代化にどのように影響を及ぼしたのかを、『天道溯原』の講読を通じて考えてみたい。

総合文化学講座

中国文化学特殊講義①A・B

本講座では余紹宋『書画書録解題』の読解を行い、書論・画論がいかに体系づけられているかを理解し、それらの文献に触れることを目的とする。本講座は、大学院科目であるため、演習形式を基本とする。各回、担当者のレジュメと口頭発表に基づいて討議の上、進行することとする。

日中比較文化学特殊講義①A・B

筆談は漢字文化圏における文化交流の中で、ユニークな役割を果たしたことで、注目の的となっている。本講義は現今残存筆談史料の筆頭に位置づけられる『大河内文書』を取り上げる。その中の17巻を占めている『黍園筆話』は、主に30年ほど日本に滞在し、激動の明治期を目の当たりにした中国浙江省出身の文化人である王治本と大河内輝声などの日本の文化人との筆談記録である。この史料の読解を通して、文献整理や読解の能力を高め、明治時代における日中民間交流の実態に迫りたい。

日本文学講義①A・B

『方丈記』作者として著名な鴨長明の歌論書『無名抄』を読む。後鳥羽院歌壇で活躍し、和歌所で『新古今集』編纂にも携わった歌人長明及び和歌の師である俊恵による独自の歌論に加え、平安時代・鎌倉時代の和歌、歌人についての伝承、エピソードも多数記され、興味深い説話が多数見られる作品である。著者長明の意図、登場する歌人達の実像に迫ることは無論であるが、同時代の和歌のあり方も同時に探って行きたい。

書道教育学

高等学校芸術科書道における学習指導内容を「学習指導要領」や教科書などに基づいて概観し、その指導方法について考える。また、今日的課題についても概説する。なお、今次の学習指導要領改訂では、小中学校国語科書写の内容が高等学校芸術科書道のみならず国語科へも延伸される見通しであることから、国語科書写の内容にも深く触れ、書写と書道との関連を考える。

書道演習②A・B

(A)楷・行各書体(B)草・篆・隷各書体を解析・事前の調べで得た書美の要素によってレポート作成、意見交換を経て半切(135×35cm)に再現する。さらに抽出した書美の要素を結集させ創作へ進む。このプロセスから抽出が不十分である内容を発見し、より深い解析へと向かうことによって書の本質にせまる。書は造形芸述、時間芸術であるが、配置、組み合わせなどを創作活動において意味づけをすることによって秩序を生み、又、書としての線の内容に対しての視点を持つことで自分の美的水準を引き上げてゆくことができる。

修士・博士　論文一覧

中国語学演習①A・B

春秋時代の史書『国語』の訳注を作成する。文法・構文を意識して中国古典を読み解く力を身につけることを目的とする。中国古典（伝世文献）を読むために必要な版本、文献、注釈に関する知識を習得することを目的とする。韋昭注及びそれ以降の注釈（おもに清朝人の注釈）を精読することにより、史書の注釈を読む力を養う。今年度は、「晋語」篇の中から、晋国の内乱（献公が驪姫を正夫人とし、国が乱れ、公子重耳が亡命する）に関する記録を取り上げる。

中国学専攻

博士後期課程

- 中国文学特殊研究①A・B
- 中国思想特別演習②A・B
- 中国語学特別演習①A・B
- 日本漢学特殊研究③A・B
- 中国文化学特別演習①A・B
- 日中比較文化学特別演習③A・B

修士論文

2022年度　修士論文題目
『財政四網』銭恂自序における中体西用について
清代の文言小説における関羽 ―『聊斎志異』『子不語』『続子不語』『閲微草堂筆記』を中心に―
日本亡命期における郭沫若に関する一研究 ――人とのつながりを中心に――

2021年度　修士論文題目
李滉 退溪 理気論の研究 ―中国朱子学から朝鮮朱子学へ
「本朝無題詩」における白楽天の諷喩詩の受容について
金庸小説における女性観の変遷について
北宋士大夫における「性」説論議の場の共有と分化 ―王安石「性」論と道学―
『聊斎志異』の恋愛物語 ―「才子佳人小説」の系譜として―
中国史書日本関係記事の集録に関する書誌学的考察―江戸時代を中心に
中国宋代知識人が形象化する人生像 ― 朱熹『小学』をてがかりに―
張衡「應間」の典故表現

2020年度　修士論文題目
『荘子』郭象注の研究 ―真実の世界をつかむ論理―
唐宋期の文人における古代文字意識の研究
高郵王氏校勘学研究 ―王引之『経義述聞』を中心に―
『撫松餘韻』をめぐる安川敬一郎諸思想の再検討－中日論語に関する講義書における各視座の変容

2019年度　修士論文題目
陳鴻壽「曼生壺」における書法藝術 ―隷書の落款・銘文研究―
『三国志演義』における関羽と魏延の人物像
高杉晋作漢詩文研究
魏晋南北朝詩論 ―阮籍・陸機を中心に―
甲府徽典館学頭時代の林鶴梁の事蹟と詩文
干宝『搜神記』の編纂 ― 儒教の継承を中心に
謝靈運山水詩考 ―「詩言志」の伝統の中で―
六朝末期～初唐の賦における典故表現の発展　北遷後の庾信による変化を中心に

2018年度　修士論文題目
『管子』の研究 ―管子解をてがかりに―
劉備の人材登用と諸葛亮の北伐 ― 蜀漢前期政権論―
王畿の思想 ―その「儒」意識をめぐって―

博士論文

年度	博士論文題目一覧
2022	近代日中における『紅楼夢』評論の成立 ―― 小説観の変遷を中心に――
2022	于右任「標準草書」研究 ―中国近代の文字改革との関係を中心に―
2022	明代会同館の基礎的研究
2021	植民地台湾・朝鮮漢文教育形成過程の研究
2020	近世易学研究 ―江戸時代の易占―
2019	江戸時代医学公教育形成期における経穴学の展開 ―江戸医学館を中心として―

2024年度 入試情報

募集定員

課　程	専　攻	
博士前期課程	国文学専攻	16名
	中国学専攻	16名
博士後期課程	国文学専攻	5名
	中国学専攻	5名

試験日程等

秋季試験	
願書受付期間	2023年9月7日(木)～9月19日(火) 締切日消印有効
試　験　日	筆記試験　2023年9月30日(土) 面接試問　2023年10月1日(日)※
合格発表	2023年10月13日(金)
入学手続締切日	2023年10月25日(水)締切日消印有効
春季試験	
願書受付期間	2024年1月15日(月)～2月2日(金) 締切日消印有効
試　験　日	筆記試験　2024年2月17日(土) 面接試問　2024年2月18日(日)※
合格発表	2024年2月26日(月)
入学手続締切日	2024年3月4日(月)締切日消印有効

※出願者数により、筆記試験と面接試問を同日に実施する場合があります。

学費

博士前期課程

	入学手続時に必要な金額	入学後11月27日までに必要な金額	入学年度に必要な金額の合計	備　考
入学金	250,000円	—	250,000円	本学出身者は無料
授業料	260,000円	260,000円	520,000円	
施設費	50,000円	50,000円	100,000円	本学出身者は半額
その他	11,430円	—	11,430円	本学出身者は6,430円
合　計	571,430円	310,000円	881,430円	

※2年次は授業料および施設費と、松苓会(同窓会)終身会費15,000円を徴収します。
※学納金は、入学時と入学後11月の2回に分けて納入。

博士後期課程

	入学手続時に必要な金額	入学後11月27日までに必要な金額	入学年度に必要な金額の合計	備　考
入学金	250,000円	—	250,000円	本学前期課程修了者は無料
授業料	260,000円	260,000円	520,000円	奨学生選抜入試における奨学金合格者は授業料全額免除
施設費	35,000円	35,000円	70,000円	本学前期課程修了者は30,000円
その他	14,620円	—	14,620円	本学前期課程修了者は9,620円
合　計	559,620円	295,000円	854,620円	

※2年次以降は授業料および施設費と、3年次に松苓会(同窓会)終身会費15,000円を徴収します。
※学納金は、入学時と入学後11月の2回に分けて納入。

試験科目等

博士前期課程

【国文学専攻】

試験種別	試験科目
一般入試※1	○専門科目(90分) ○英語・中国語・古典中国語(漢文)から1科目選択(60分)※2 ○面接試問
社会人入試	○小論文(60分) ○面接試問
外国人入試	○小論文(60分) ○面接試問

【中国学専攻】

試験種別	試験科目
一般入試※1	○専門科目(90分) ○英語・中国語・古典中国語(漢文)から1科目選択(60分)※2 ○面接試問
社会人入試	○小論文(60分) ○面接試問
外国人入試	○小論文(60分) ○面接試問

※1 博士前期課程一般入試で本学出身者の場合は、試験科目等一部異なります。
詳細は入試課までお問い合わせください。

※2 次の外国語能力試験のスコア等が下記基準を超える者については、外国語の試験を免除します。
・TOEFL（iBT）　72点以上
・TOEIC（L&R）　785点以上
・IELTS　5.5以上

博士後期課程

博士後期課程に出願する者は、必ず出願期間前に希望する指導教員、研究テーマや内容について事前相談を行った上で、出願してください。詳細は入試要項を確認してください。

【国文学専攻】

試験種別	試験科目
一般（奨学生選抜付）入試	○小論文(90分) ○面接試問
外国人留学生入試	○小論文(60分) ○面接試問

【中国学専攻】

試験種別	試験科目
奨学生選抜入試	○専門科目(90分) ○英語・中国語・古典中国語(漢文)から1科目選択(60分)※2 ○面接試問
一般入試	○英語・中国語・古典中国語(漢文)から1科目選択(60分)※2 ○面接試問
外国人留学生入試	○小論文(60分) ○面接試問

2023年度 入試結果

課　程	試験種別	専　攻	10月試験		2月試験		合　計	
			志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者
博士前期課程（修士課程）	一般入試	国文学専攻	4	3	2	2	6	5
		中国学専攻	2	2	0	0	2	2
	社会人入試	国文学専攻	0	0	0	0	0	0
		中国学専攻	0	0	1	1	1	1
	外国人留学生入試	国文学専攻	3	3	2	1	5	4
		中国学専攻	0	0	1	1	1	1
	合　計	国文学専攻	7	6	4	3	11	9
		中国学専攻	2	2	2	2	4	4
博士後期課程（博士課程）	一般入試	国文学専攻	0	0	0	0	0	0
		中国学専攻	0	0	1	1	1	1
	外国人留学生入試	国文学専攻	0	0	1	1	1	1
		中国学専攻	0	0	1	0	1	0
	合　計	国文学専攻	0	0	1	1	1	1
		中国学専攻	0	0	2	1	2	1

TOPICS

奨学金制度について

二松学舎大学研究科では、成績・人物ともに優秀な学生に対し、高度な研究に専心できる環境づくりの支援を行うことを目的とし、新たな奨学金制度を導入します。

博士後期課程

2024年度から博士後期課程において、奨学生選抜入試が導入されます。合格者のうち成績優秀にして入学する者、若干名（各専攻）を奨学生選抜入試における奨学金合格者（以下「奨学金合格者」とする）として、合格発表時に通知します。奨学金合格者になると、授業料が全額免除されます。さらに、毎年度末の資格継続審査で条件を満たすことで次年度も免除措置が継続され、最大3年間免除措置が適用されます。

【注意】奨学生選抜入試では、奨学金合格者のほか、通常合格枠もあります。奨学生選抜入試の合格者全員が、奨学金合格者となるわけではありません。

博士前期課程

2024年度から博士前期課程において、年度末の成績を基に優秀な成績を収めた者については、当該年度の授業料半額が給付されます。毎年度末の資格継続審査で条件を満たすことで、次年度も減免措置が継続され、最大2年間減免措置が適用されます。

※ 奨学生選抜入試の詳細については、入試要項を確認してください。

多様な教育・研究制度

◎委託研修生

公的な機関・団体または外国政府等から、本学大学院の授業科目の履修および研究指導の委託があった場合、委託研修生として受け入れています。

◎研究生

大学学部卒業者以上を対象とした研究制度です。特定の専門事項について研究を志願する者を選考のうえ研究生として受け入れ、研究指導を行います。

◎科目等履修生

科目等履修生とは、一般社会人等に対してパートタイムによる学習機会を拡充し、その成果に適切な評価を与える（単位認定する）ことを目的として設けられた制度です。
本大学院でも1科目または複数の授業科目の履修を希望する方を、科目等履修生として積極的に受け入れています。
履修期間は原則として1年間になります。

学会および定期刊行物について

大学院紀要『二松』

大学院文学研究科の関係者（教員、助手、学生等）による研究成果の発表を目的とする論文集です。

二松学舎大学人文学会

二松学舎大学人文会は、教員・同窓会・学生を中心とした研究機関です。国語国文学・中国学および一般人文科学に関する研究と会員相互の親睦を図る目的で組織されました。講演会と春秋2回の定期研究発表会、機関誌『人文論叢』の発行を行なっています。

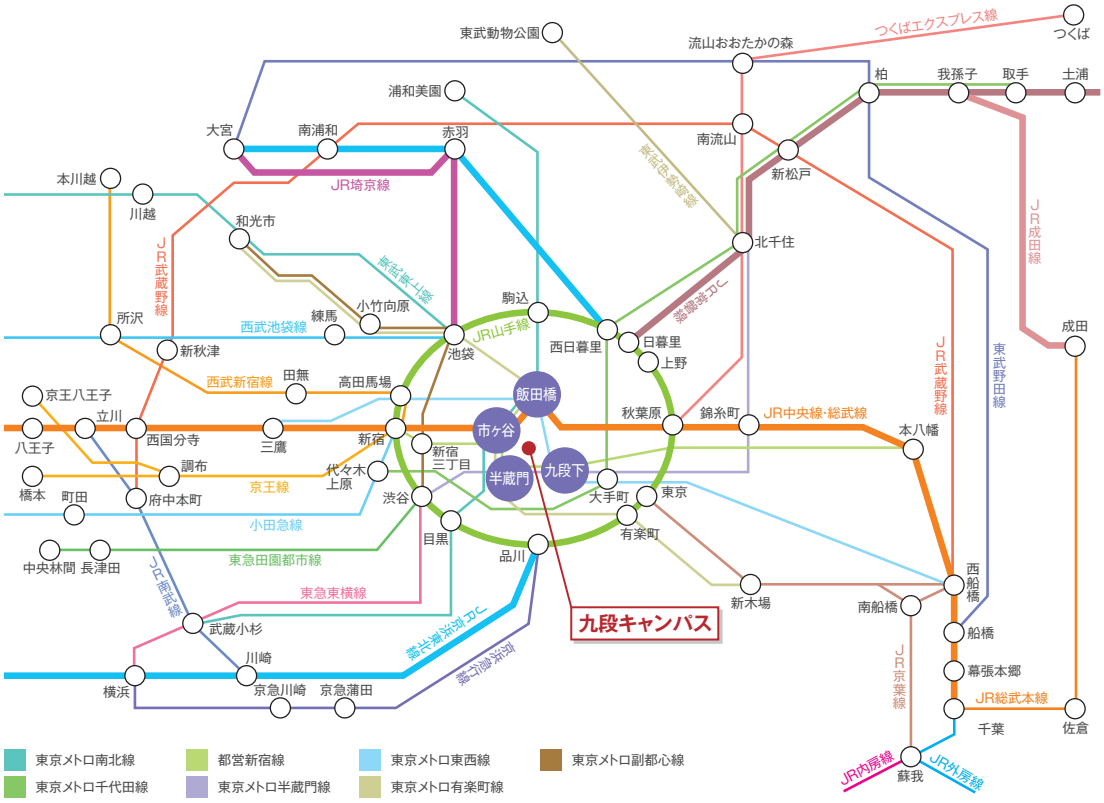
九段キャンパス

アクセスに優れた文化・経済の中心地で。

東京の中心、千代田区三番町に位置するキャンパスは、新宿・大手町・渋谷・池袋などの主要駅に30分以内でアクセスできる環境にあるため、貴重な時間を有効に活用できます。

- 東京メトロ東西線・半蔵門線・都営新宿線「九段下」駅下車、2番出口より徒歩8分
- JR線・東京メトロ有楽町線・東西線・南北線「飯田橋」駅下車、西口より徒歩15分
- JR線・東京メトロ有楽町線・南北線・都営新宿線「市ヶ谷」駅下車、徒歩15分
- 東京メトロ半蔵門線「半蔵門」駅下車、5番出口より徒歩10分

Access Map



二松學舍大學
大学院／文学研究科

お問い合わせ　入試課
〒102-8336　東京都千代田区三番町6-16
TEL.03-3261-7423　FAX.03-3261-8904
E-mail : nyushik@nishogakusha-u.ac.jp
ホームページ　https://www.nishogakusha-u.ac.jp/admission/

145th anniversary since1877

Japan University Accreditation Association
UNIVERSITY ACCREDITED 2021.4～2028.3

23060300